

平成30年度(平成29年度事業分)周南市事務事業評価シート

事務事業コード	012502	事務事業名	鹿野総合支所整備検討事業			
担当部・課名	鹿野総合支所 地域政策課	評価者(課長)	山本 加代子	評価責任者(部長)	潮田 誠	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり総合計画・前期基本計画における位置づけ	施策コード	900201	分野	9行政経営	事業の分類	(施設等整備事業)
	基本施策	2将来を見据えた行政経営			補助・単独の別	単独
	推進施策	(1)行財政改革の推進			会計名	01一般会計

事業の目的(対象)	鹿野総合支所の施設整備に向けた住民との合意形成。	事業の目的(意図)	将来的な鹿野総合支所の施設整備に向け、安心・安全な地域の拠点施設として整備の方向性を強める。
事業の内容(手段)	平成30年2月に議会、3月に住民に対し、鹿野総合支所の施設整備について、市の考え方を示した。市民コンセンサスを得る方法として、各地域や集落に出向き、総合支所の整備方法や将来への方向性を丁寧に説明していく。		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	28年度	29年度	30年度
					目標値	実績値	達成度(%)
住民との合意形成		鹿野総合支所の施設整備について住民と合意形成する。	式				

事業費	項目	単位	28年度	29年度	30年度(予算)	31年度(予算)	32年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	500	—	—	10,146
うち一財		千円	500	—	—	10,146	—
(決算額)	直接事業費	千円	269	—		対30年度増減理由	対31年度増減理由
	うち一財	千円	269	—		事業実施に向けた基本設計委託料の計上。	
正職員人件費	千円	2,931	—				
人工数	人	0.40	—	—			
	支出コスト	千円	決) 3,200	—			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	平成26年度に4案の整備方法をまとめた基本方針を策定した。27年度からは住民や関係機関との協議・調整を重ね、28年度には住民との協議を更に深めるために、ワークショップの手法を用いた意見集約に努めてきた。29年度には市の考え方を議会や住民に公表し、各種団体や集會に臨み、丁寧な説明をおこなう。	課題・問題点	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 住民感情を二分させることのないよう住民との協議を重ねる中で、市の考え方を公表した。今後はその考え方を丁寧に説明し、次の段階へ進む判断の時期を見極める。
	評価	C	A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由 講演会やワークショップなど住民との調整は十分に行ってきたが、参加者が少数であったことなどに起因して、十分な意見集約と合意を得ることができなかった。
	事務事業の方向性	総合支所施設整備方針について、市の考え方を公表した。今後はこの考え方について、丁寧な住民説明を実施し、コンセンサスを得て事業実施としたい。	評価責任者コメント	総合支所整備についての市の方針を機会あるごとに丁寧に説明していき、理解を得て、事業実施に向けた準備に取り掛かる。

【改善】 Action

平成31年度当初予算等での改善結果(平成31年度当初予算への反映など)	備考
地域住民に対する総合支所整備の方向性の説明を経て、いよいよ事業着手し、基本設計を実施する。	

【事務事業を構成する細事業(H29年度事業分)】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否	正職員	臨時等	
①	鹿野総合支所施設整備検討事業	整備方法や整備場所についての合意形成	施設整備の市の考え方を公表し、住民に対し地域に赴くなどして丁寧な説明を実施する。	否	0.50		
②							
③							
④							
⑤							

平成30年度(平成29年度事業分)周南市事務事業評価シート

事務事業コード	911029	事務事業名	コアプラザ管理運営事業			
担当部・課名	鹿野総合支所 地域政策課	評価者(課長)	山本 加代子	評価責任者(部長)	潮田 誠	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり総合計画・前期基本計画における位置づけ	施策コード	900201	分野	9行政経営	事業の分類	(施設等管理運営事業)
	基本施策	2将来を見据えた行政経営			補助・単独の別	単独
	推進施策	(1)行財政改革の推進			会計名	01一般会計

事業の目的(対象)	来庁者、職員、地域住民	事業の目的(意図)	コアプラザ鹿野の適切な維持管理を行いながら、利用者の増大を図る。
事業の内容(手段)	快適な地域の拠点施設となるように維持管理し、利用者の増大に努める。		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	28年度	29年度	30年度
					目標値	31,440.0	31,440.0
利用者数	貸館利用者の申請書及び実績報告書による数	人	実績値	20,320.0	24,651.0		
			達成度(%)	64.6%	78.4%		

事業費	項目	単位	28年度	29年度	30年度(予算)	31年度(予算)	32年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	11,245	11,536	14,306	14,921
うち一財		千円	10,786	11,120	13,899	14,503	
(決算額)	直接事業費	千円	10,301	13,292		対30年度増減理由	対31年度増減理由
	うち一財	千円	9,890	12,873			
	正職員人件費	千円	3,664	0			
	人工数	人	0.50				
	支出コスト	千円	決) 13,965	決) 13,292			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	平成21年2月の供用開始から医療、福祉、保険、生涯学習の拠点施設として、地域住民にも認知されてきた。またイベント会場として利用されることもあり、親しみやすい施設となっている。	課題・問題点	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 イベント開催などにより一時的な利用者数の向上は見込めるが、継続的な利用となるようにしなければならない。特に、夜間の利用を促進する必要がある。
	評価	C	A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由 地域の拠点施設として、適正な維持管理に努め、利用者の減少にならないように運営している。しかしながら、利用者の固定化が進み、新規利用者の増加のために新たな試みや新規教室の取組みが望まれる。
	事務事業の方向性	利用率向上の為、各種団体や個人と連携し、体験会の実施や教室などの開催に努め、周知を図る。	評価責任者コメント	施設の設置目的に対応した維持管理に努め、利用率向上を目指した取組みを行う。

【改善】 Action

平成31年度当初予算等での改善結果(平成31年度当初予算への反映など) 燃料費や光熱水費等、使用実績に基づいた現状に近い予算としている。また、樹木管理等景観整備については、利用促進をはかる視点から樹木の伐採箇所等を増加し、環境美化に努めている。	備考
---	----

【事務事業を構成する細事業(H29年度事業分)】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否	正職員	臨時等	
①	コアプラザかの管理運営事業	経費削減による運営費の削減や利用者数の向上を図る。	エネルギーコストの削減に努め、体験会や教室の開催などにより、利用者に周知を図る。	否	0.50		
②							
③							
④							
⑤							

平成30年度(平成29年度事業分)周南市事務事業評価シート

事務事業コード	012553	事務事業名	鹿野総合支所管理運営事業費			
担当部・課名	鹿野総合支所 地域政策課	評価者(課長)	山本 加代子	評価責任者(部長)	潮田 誠	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり総合計画・前期基本計画における位置づけ	施策コード	900201	分野	9行政経営	事業の分類	(施設等管理運営事業)
	基本施策	2将来を見据えた行政経営			補助・単独の別	単独
	推進施策	(1)行財政改革の推進			会計名	01一般会計

事業の目的(対象)	来庁者、職員、地域住民	事業の目的(意図)	鹿野総合支所の適切な維持管理を行う。
事業の内容(手段)	住民にとって利用しやすく懇切丁寧な行政窓口でありながら、コスト削減に努めた総合支所の施設管理を行う。		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	28年度	29年度	30年度
					目標値	16,438.0	14,515.0
施設管理経費の削減	施設管理費の対前年度比減	千円	実績値	14,822.0	14,261.0		
				達成度(%)	90.2%	98.3%	

事業費	項目	単位	28年度	29年度	30年度(予算)	31年度(予算)	32年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	16,438	14,515	14,498	16,723
うち一財		千円	15,249	13,331	13,449	15,669	
(決算額)	直接事業費	千円	14,822	14,261		対30年度増減理由	対31年度増減理由
	うち一財	千円	13,659	13,161		長期契約の更新等による業者見積での委託料の増額。	
正職員人件費	千円	1,465	0				
人工数	人	0.20					
	支出コスト	千円	決) 16,287	決) 14,261			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	合併後、旧役場が総合支所として存続している。遊休スペースを金融機関に貸与し、総合支所としての事務所を1階に集約し、住民の利便性と施設管理の効率性を高めている。	課題・問題点	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 建築後40年余りが経過しており、バリアフリーに対応していない等、利用しにくい施設となっている。しかも耐震性に劣ることから、安心・安全な拠点施設として建物自体の更新が望まれる。	
	評価	B	A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	建物施設の老朽化が著しく、対応が追いつかない状況にあり、外壁の一部が落下するなど安全性に問題があり、職員・市民の利用環境にも影響している。
	事務事業の方向性	施設管理費について、委託業務の見直しや光熱水費のエネルギー削減などに努め、維持経費を削減していく。	評価責任者コメント	老朽化した施設ではあるが、職員全員で協力し、経費節減に努めるとともに、住民が利用しやすい環境づくりを目指す。	

【改善】 Action

平成31年度当初予算等での改善結果(平成31年度当初予算への反映など)	備考
経年劣化の進行する施設ではあるが、地域住民に安心・安全を提供する総合支所として、必要不可欠な業務を実施するため、適法、適正な維持管理を行っていく。	

【事務事業を構成する細事業(H29年度事業分)】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否	正職員	臨時等	
①	鹿野総合支所管理運営事業	維持管理費の削減	エネルギーのコスト削減	否	0.50		
②							
③							
④							
⑤							